カトリック教報

カトリック長崎大司教区
広報委員会
〒852-8113
長崎市上野町10-34
カトリックセンター内
TEL 095-843-3869
FAX 095-843-3417
振替口座 01880-5-2699
発行人
大水文隆
印刷所
株式会社 藤木博英社

聖年開年ミサ

12月8日（無原罪の聖母の祭日・第2バチカン公会議閉幕50周年）から「いつくしみの特別聖年」が始まることを受け、長崎教区では12月13日（日）午後3時、浦上教会で特別聖年開年ミサが行われます。

世界代表司教会議（シノドス）第14回通常総会

家庭に寄り添う司牧的いつくしみ

日本カトリック司教協議会代表　髙見三明大司教

標記の会議が去る10月4～25日、バチカンで開催された。

シノドスは、50年前、つまり第2バチカン公会議第4（最終）会期開始ミサの翌日、9月15日付けで福者パウロ6世教皇によって設立された。

その目的は、教皇と全世界の司教たちとの緊密な一致と協働を促進し、教会生活にかかわる諸問題や状況ならびに教会が現代世界において行うべき活動に関する直接的で正確な情報を提供し、教えの本質的な点と教会生活における行動方法について共通認識を容易にすることにある。具体的には、全教会を代表する「シノドス教父」たちがその時のテーマについて討議しまとめた提言を教皇に献呈する。テーマは、全世界の司教や他から募ったものの中から教皇が選定する。

第1回の1967年から数えて14回目の今回のテーマは、「教会と現代世界における家庭の召命と使命」だった。枢機卿や司教が大多数を占める270人が投票権を持っていたが、修道会代表、神学その他の専門家、夫婦17組を含むオブザーバー、カトリック以外の教会代表など、総勢359人が参加した。結婚と家庭の現状を把握しようと努めた昨年10月の第3回臨時総会の「最終報告」を受けて、今回のシノドスは、その現状を聖書と教会の教えに照らして分析し、さまざまな理由で悩み苦しんでいる人々に「家庭の福音」となるものをできる限りまとめ上げようと奮闘した。今や結婚制度があってないような状況が世界の大勢を占めている観があり、同棲、離婚、離婚後の再婚、同性愛など、また貧困や移住の中の家庭の現実に、教会としてどう向き合えばよいかについて話し合われた。

直接の明快な解決策が得られたとはいえないが、司牧者である司教や司祭が教会共同体と共に、それぞれ異なった困難なつらい状況にある人々一人一人の声に耳を傾けて共感し、教会の交わりの中に迎え入れ、彼らに寄り添い、彼らと共に歩むようにしなければならないという司牧的〝いつくしみ〟の大切さが強調された。

この会議の「最終報告書」を受け取られた教皇様が、来年あたりに「使徒的勧告」の形で文書を公布されるはずである。

小共同体での諸宗教対話をどのように進めるか

タイ・バンコクでアシパ総会

アシパ総会が10月22日から28日まで、タイの首都バンコクにあるバン・プアン・ワン司牧研修センターで開催された。

アシパ（AsIPA=Asian Integral Pastoral Approach）とは、アジア司教協議会連盟（FABC）が第2バチカン公会議の精神をアジアで実現するために開発したプログラム。総会は3年に1度開催され、今回は7回目。FABC第5回総会（1990年）でこのプログラム作成が決議され実行に移されてから25年という、節目に当たる総会だった。

参加者は15カ国125人で、司教13、司祭57、修道者14、信徒41人。6年ぶりの参加となる長崎教区からは、中濱敬司師（教区信仰養成部長・教区家庭委員長）、パサラ・ジョゼフ師（神言修道会）、下窄優美シスター（お告げのマリア修道会）、岩崎しのぶシスター（同）、長野宏樹（西町教会信徒）の5人が参加した。

今回のメインテーマは「異なる宗教や信条の人々と生きる小共同体」で、基調講演に続き、各国での実施状況や体験の分かち合いがなされた。基調講演では、「諸宗教対話の心構えとして、①自由な雰囲気で心を開き、②相手に耳を傾け、③互いに尊敬し合い、④相手の信仰を理解し合い、⑤何か一緒に行動を起こすことが重要」といった極めて当たり前のことが強調され、我々自身このような態度で相手に接し、またこの考え方を広く伝える必要があると再認識させられた。また、今回の総会では、新しく開発された教材の紹介と実習といった内容豊富なものであった。

長崎教区のアシパ・プログラム（長崎教区では小共同体づくりと呼んでいる）の取り組みは、まだまだ歩み始めの状態に留まっているのが実態であるが、教区シノドスの提言にもあるように、本気で取り組む時期に来ているように思えてならなかった。

現地では、日本人信徒グループの人々と懇談・交流することができ、どのようにすれば自分たちの子どもに信仰の伝達ができるかということが話題となった。そこでシスターが中心となり、親が子どもに教えるための要理の資料を作り、家庭でそれを使って教え、教会学校ではその復習をするという形で親の信仰養成と子どもの要理教育に成果を上げているという素晴らしい分かち合いができた。

（長野宏樹）

HP（ホームページ）の宣教への活用

12教区の広報担当者が研修

カトリック中央協議会広報主催による全国広報担当者会議が10月26～27日に東京・日本カトリック会館で開かれ、長崎を含む12教区から担当者17人が集まった。テーマは「福音宣教のために、ホームページを活用して」。

1日目、教皇フランシスコのメディア関係者へのあいさつ（2013年3月16日）を導入に、2グループに分かれて広報の理念を探るべく分かち合いをし、教区広報の現状や課題を出し合った。午後は、クロスメディア・コミュニケーションズ代表取締役の雨宮和弘氏（写真）が、ソーシャルメディア時代におけるホームページ作成にあたっての留意点について講演。情報過多の時代、伝えるだけでなく「伝わるように伝える」こと、「どんな思いをもって何を伝えようとしているのか」といった、団体の活動の実体（想いや考え）を可視化することの大切さを前置きし、写真・動画・インフォグラフィックスなど可視化の主な手法を紹介した。さらに、情報が伝わった先の相手が実際に行動できるかどうか、団体を形成する一人一人が「外向けの社内広報」を目指し、「何を（What）」よりも「なぜ（Why）」を伝えることが望まれている現代のありようも語られた。講演後は活発な質疑応答があった。

2日目は中央協議会広報への要望など意見を出し合い、ミサをもって終了。参加者は学んだことを今後の広報活動に生かすよう思いを新たにした。

「ザビエル渡来400年祭」写真

深堀好敏さん、教区へ寄贈

1949年5月29日、教皇特使ノーマン・ギルロイ枢機卿を迎え、長崎市内で盛大に祝われた聖フランシスコ・ザビエル渡来400年祭。当時の様子をとらえた写真5点が、このほど長崎大司教区に寄贈された。

写真は、聖腕行列が大浦天主堂を出発する様子や西坂での聖体降福式を撮影したもので、撮影日など英語の説明も付されている。今年6月、原爆資料の調査のために渡米した長崎平和推進協会写真資料調査部会長の深堀好敏さん（86）がワシントンにある国立公文書館で偶然、見つけた。先方の許可を得て画像データを長崎に持ち帰り、11月7日、髙見三明大司教に手渡した。

写真を手渡す深堀さん（左）・大司教館

浦上教会の信徒でもある深堀さんは、「写真を見た瞬間、400年祭と分かり、驚きました。ぜひ多くの人の目に触れてほしい」と話している。

在日外国人との関わりを

佐世保で難民移住移動者委の研修会

10月20～22日、日本カトリック難民移住移動者委員会が主催する「全国研修会 in 佐世保」が三浦町教会で開催され、全国から約60人が参加した。

日本人と外国人のより良い共存環境を作ることを目的とした同研修会のテーマは、「一つの船に乗って行く」。研修では、福者カミロ・コンスタンツォの殉教地巡礼（平戸市）、大村入国管理収容センター・佐世保米軍基地・SSK造船所など在日外国人が関係する施設や職場の見学、同委員会委員長の松浦悟郎司教による外国人への支援活動講演のほか交流会があり、分かち合いなどを通してその道を探った。

教区人権委員会の難民移住移動者担当のメンバーである伊達孝明さん（三浦町教会）は、研修会を支えたすべての人に感謝するとともに、長崎教区でも多くの人が在日外国人との関わりを持つようになることを願い、次のように語った。「これまで教区内では、難民移住移動者委員会のことはほとんど知られていなかったと思います。これをきっかけに在日外国人の方々と、大村入管センター支援や合同ミサ参加など、活動の輪が広がっていくことを祈り、行動していきましょう」

ほしかげ

11月、12月になると「クリスマスプレゼント」を少し考えます。神はご自分の独り子をプレゼントしてくださいました。たまには信徒の皆さんに、せめて世帯ごとにプレゼントをしたい。そこで今年は、11月号の「ほしかげ」に紹介されていた『拾い集めたら』を配布することにしました▲ところで信徒の皆さんは、主任司祭またはかかわりのある司祭に、プレゼントとか考えたりするのでしょうか。今年は何が届くかなぁ、今年くらいは何か届かないかなぁ。司祭も人の子であります▲そこで思い切ったクリスマスプレゼントを用意してみてはいかがでしょうか。主任司祭は年末から年明けになると、次年度の小教区予算に頭を悩ませています。繰越金さえまともにない小教区の収入が、信徒の減少で次年度はさらに縮小する。どうしたものかと評議会にも相談できずに悩んでいます▲そんなことを知ってか知らずか、もらうものはしっかりもらいましょうという方が教会の中にもいるようで、手当がなければ仕事をしないと、無言の圧力をかけてきます。雇用契約が必要な人、信仰教育で助けてくださる人には手当はあってしかるべきですが、それ以上は必要ないと思います。「神父さん、今後わたしたちの手当てはクリスマスプレゼントで返上します。他の用途に使ってください。」早く気付いて、そう言ってくれないでしょうか。（K・N）

わが子へ
～親から子への手紙～

元気でしょうか。もう随分長いこと、あなたと話をしていない気がしています。あなたの勉強や仕事、家族や友だち、どんな具合でしょうか。今は何に夢中で、何を悩み、どんな壁にぶつかっているのでしょうか。もちろん、それらを聞いたところで、今の私にはもうたいしたことはできないのはわかっています。あなた自身も、「自分はもう大人だ」「自分のことは自分でやるし、できる」と言うだろうし、「親には心配かけたくない」とも思ってくれているのでしょう。また、「親の背中から多くのことを学んだ」と過分にも感じてくれているのかもしれません。しかし親としては、何か忘れ物をしているような感じがいつも残っているものです。

今日は、あなたに手紙を書くことにしました。うまく書ける気がしませんが、私の思いのいくらかでも読みとってくれればと思っています。返事はいりません。

あなたを思う時、なぜかいつも、あなたの生まれた時のことを思い出します。あなたは当然覚えていないでしょうが、産声をあげて泣くあなたの顔、あなたをはじめてこの両手で抱き上げた時のぬくもりが今でも残っています。ほんとうに可愛く、いとおしく、ほんとうに嬉しかった。信仰の薄い私でも、あの時は手を合わせて心から神に感謝したし、「この子をずっと守ってください」と祈りました。「ちゃんと育ってくれるのか、ちゃんと育てられるのか」という不安もありました。そして、あの日から今日までたくさんのことがありました。ここに書き尽くすことなど到底できません。あなたのために何かができた、というよりも、私こそあなたからたくさんのものをいただきました。ありがとう。ただ、親としての力不足、失敗もあったし後悔していることもあります。あなたの心に傷となっているようなこともあるのかもしれないと思っています。そうならゆるしてください。もう遅いでしょうか。

特にあなたに言っておきたいことがあります。私も先祖や親から受け継いだもので、あなたにも次の世代に伝えてほしいことです。それは信仰についてです。あなたへの信仰教育の責務を十分に果たすことができなかったのではないかと反省しています。私自身も信仰に価値を見いだせず、得体の知れないもの、不確かで、古臭く、弱い者の逃げ道だろうと反発し、「自分の人生は自分で切り開く」と自分に言い聞かせて、与えられた信仰に対しても教会からも距離を置いていた期間がありました。

「信仰は神から与えられる恵み」だと何度も聞いてきました。それは、自分や他人が何をして何をしなかったか、という視点よりも、まず第一に、「私たちは神から大切にされている」と信じることができる恵みなのだと最近思えるようになってきました。「自分は大切にされたいけれども、十分に大切にされていない」という寂しさや怒り、渇きのようなものが、多くの事件や問題を引き起こしているのではないかとも考えています。

私たちの信じる神は、私たちを大切にしているしるしとして、御子イエスをこの世に派遣してくださった。そして、このイエスは十字架上で苦しみ、死に至るまで私たちを愛してくださった。ここに神の愛が示されています。そしてここには、人間の真のあるべき姿も同時に示されています。この世の中、どれほどの人が他人のために自分を犠牲にすることができるというのでしょうか。そんなことは愚かなこと、あるいは自分のことで精いっぱいだと言いたくなる気持ちもわかります。私も尻込みしたくなります。しかし、イエスは私たちのために自分を犠牲にして死んでいきます。自分だけを大切にして、自分だけの幸せを求めるのではなく、隣人を大切にすること、特に誰からも大切にされていないと思っている人を大切にすること、これが神の愛の教えであり、教会の教えだと私は理解しています。

このようなことを書くとあなたも思い出してくれるでしょう。この十字架の愛を受け取り、自分も十字架を担えるようにと、私たちは十字架のしるしを何度も身に刻み、またこのことをミサで記念しているのです。

人間関係においても、家庭、学校、職場でも、利益を追求するような経済活動や商売においても、国際関係にあっても、自分のみの幸せを追求することは、結局はうまくいかないことに人はどこかで気づいているはずです。隣人への愛が、真の調和や平和を築き上げる近道だと私たちはイエスを通して学ぶのです。人類が長い間いつも探している「幸い」の道を、神がイエスを通して示してくださったのです。

確かに私たちは弱いからイエスのようには愛しきることは難しいですが、それをあきらめることは幸せを手放すことであり、自分だけの幸せを求めることは不幸なことだと言われているような気がしています。

昨今のさまざまな報道を見るに、疑問と同時に、怒りにも似た感情が湧きあがってくることがあります。人間は何を求めているのか、お金や自分の欲を満足させることか、「欲しいものは何でも手に入れる」「やりたいことは何でもやる」ことか。そういう自由なんてはじめから人間にはないのです。イエスの十字架を思う時、人間の醜さもよく見えてきます。

あなたは最近、祈っているでしょうか。祈りは、私たちを大切にしている方が一緒にいることを感じながら、感謝の心を取り戻すと同時に、十字を切りながら、襟を正して自分自身の生き方を振り返る貴重な時です。

教会の教えを興味深く学ぶようになって思うことは、それは狭くて偏屈な一部の人たちのための教えではなく、また世間の常識からかけ離れた雲の上の教えでもなく、むしろ世間の常識や人間の幸せ、世界の平和を作り上げていくために不可欠な教えなのだと思えるようになってきました。

私の中で、まだまだ整理できていないこともたくさんあります。信仰と愛を、自分にも周囲にも言い聞かせていく使命を持っている教会にも、不協和音を感じることもあります。今、教会が疲弊しているとも言われます。先の長崎教区の「シノドス」という会議では、その原因や今後の再興の方法についても話し合われました。シノドスの提言と共に、先人たちの信仰を振り返りながら、遅ればせながら、この私も「このままではいけないだろう」と責任を感じはじめているのです。だからこそ、こうして、あなたにペンを取ったのです。

あなたの故郷の教会は、ほんとうに年寄りばかりになりました。過疎化、高齢化というのもあるけれど、さみしい限りです。若い人にこそ、これからの人生のためにもっともっと信仰が必要なのに。考えてみると、今の爺さん婆さんたちも、昔から爺さん婆さんだったわけではなく、紆余曲折の人生を経たうえで、信仰の重大さを認め、かけがえのない祈りの場を見いだしたからこそ祭壇の前に集っているのです。また、自分たちの子や孫たちにも信仰の恵みが豊かにあるように熱心に祈り続けています。そうです。彼らのほんとうの幸せを願っているのです。

長い手紙になりました。次はいつ書けるかわかりません。繰り返しますが、返事はいりません。でも、あなたは、あなたの子供たちに伝えるべきことを是非伝えてください。

私はあなたを子としていただき、不十分でしたが愛する恵みをいただいたことに神に感謝しています。私もあなたを抱いたあの同じ両手を合わせて、あなたのために神に祈っています。

信仰は飾りでしょうか
上五島地区堅信式で47人が受堅

上五島地区堅信式が11月8日（日）午後2時、青方教会で行われ、11小教区から中学生45人、成人2人の計47人が堅信の秘跡を受けた。

高見三明大司教は説教で「信仰は飾りでしょうか。そうではありません。人生を懸けても、それに有り余る価値あるものです。聖霊の賜物の中に知恵の賜物があります。信仰の価値を知り、神さまのみ旨をよりよく知るために、堅信の秘跡でこの賜物を特に願ってください」と諭した。

ミサの終わりに、土井ノ浦教会の中学2年生、西村真由子さんが受堅者を代表して決意を述べた（写真）。「これから聖霊のお恵みに信頼し、言われなくても祈りをし、ミサに参加しようと思います。そして周りの人々の模範となれるよう頑張ります。今日までお祈りくださった大司教さまをはじめ信徒の皆さま、熱心に指導してくださった神父さま方やシスター方、そして信仰を伝え導いてくれた両親に、心から感謝します。今日の日を忘れず、いただいた使命を心に刻みながら、信仰生活を送っていきます」

共に過ごし考える
JLMMの活動を報告

11月8日、長崎大司教館でJLMM（日本カトリック信徒宣教者会）活動報告会が開催され、カンボジアに派遣されている井手　司さん（福岡教区・久留米教会信徒、写真左上）が「コンポンルアン水上村での活動報告」を行った。

JLMMは、主にアジア・太平洋地域にボランティアを派遣、信徒宣教者は、キリストが人々と共に歩まれたように、自分自身の生き方や活動を通してキリストの言葉を実践しようと活動している。

報告会では、水上村の生活用水の全てが湖の水を使用していることで劣悪な衛生環境になっていること、ベトナム人がクメール語（カンボジアの公用語）を話せないために教育・病院サービスを受けることが難しいといった問題なども語られた。井手さんは浄化した水での体洗いや爪切り・耳掃除の指導、歯磨き指導、健康状態のチェックや手当、識字教室を行っている。「村人の方と共に時間を過ごし、共に考えることの大切さを感じている。また、水上村での生活は不便で娯楽も無いけれども、村人の方々に助けられているから楽しく活動できている」と話した。

ご先祖に心より感謝を・・・
材石治明
長崎本店　長崎市城栄町13-1　電話（095）846-3598
大村店　大村市民霊園内　電話（0957）50-3008

主の平安
カトリック式葬祭・飾付一式
（有）栄光式典社
代表取締役　ヨハネ　西村　勇二
長崎市辻町7-18　TEL(095)844-4011
24時間営業　FAX(095)843-9896

私たちは互いに兄弟姉妹。
『カトリック教報』読者の皆さまへ。
教皇フランシスコのメッセージは多くの人々を魅了しています。
信仰生活と福音宣教のヒントとして、
カトリック新聞をぜひご活用ください。
共に生きる カトリック新聞
ご購読のお申し込みは　カトリック新聞　検索
週刊（日曜日発行）／1年9,744円　半年4,872円（国内1部、税・送料込）
03-5632-4432　http://www.cwjpn.com/cwjpn/

戦後70年の反省と評価

日韓司教交流会

21回目を迎えた今年の「日韓司教交流会」は、11月10日（火）から12日（木）まで、横浜教区の山手教会などを会場に開かれた。韓国から22人の司教と司教協議会の6人の司祭が来日、日本の15人の司教と司教協議会のスタッフらが迎えた。

今回のテーマは、「戦後70年のあいだカトリック教会は社会の中でどのように福音を生きてきたか」。使徒的勧告『福音の喜び』をもとに、両国の教会の70年を評価、反省する内容となった。

1日目は、大阪教区の小田武彦師が「日本のカトリック教会は、社会の中で福音をどのように生きようとしてきたか」と題して講演。日本の宣教史をザビエルから現代まで概説する中で、1981年の教皇来日、84年の宣教の基本方針決定、2度の福音宣教推進全国会議、2001年の司教団メッセージ『いのちへのまなざし』などに触れ、また阪神淡路・東日本両大震災を通じて、社会に関わっていこうとした教会の姿も提示した。

2日目は、ソウル教区の正義と平和委員会委員長を務めるパク・ドンホ師が「『福音の喜び』を土台としたわたしたちの70年間に対する評価と反省」と題し、特に教皇フランシスコが現代教会に対し、勧告していることを整理、考察した。

午後からは横須賀の米海軍基地の視察、3日目は分かち合いなどを行った。来年は韓国で開催予定。

150年目の神学生は君だ

長崎カトリック神学院で体験入学

10月10日（土）～11日（日）1日体験入学が行われ、23人が神学校生活を体験しました。今回は滑石教会出身の山下 敦神父様（大分教区）のご尽力により、4人の子どもたちが大分から参加してくれました。また佐世保地区からは、神学校に入学したいとの意識をもって参加してくれた子どもたちが多く、来年の入学が楽しみです。

司祭召命のきっかけは、司祭の司牧している姿であり、周りの方々の呼び掛けにあると思います。長崎教区においては、今後、司祭の高齢化と神学生の減少により、司祭の数が小教区の数に満たないため、主任司祭不在の小教区が出てくるでしょう。そうならないためにも、教区シノドス提言に挙げられていますが、「召命を求める祈り」を唱えてください。お願いいたします。

また、12月20日（日）の小神学校創設150周年記念ミサと祝賀会には、元神学生の皆さまの参加をいただき、共に召命のためにお祈りをささげたいと思います。

院長　眞浦健吾

2015年度 クリスマス愛の募金

国内外の被災者のために
ご協力をお願いいたします

期間　12月1日～16年1月15日
主催　長崎大司教区 教区評議会
支援先　東日本大震災復興（カリタス大槌ベース）
　　国内の生活困窮者
　　自然災害による被災者

先祖の歩みをたどる

水ノ浦小教区が徒歩巡礼

水ノ浦小教区（主任 鳥瀬文武師）は、10月4日（日）に「日本の信徒発見150周年」を記念して、先祖が歩んだ道をたどり徒歩巡礼した。

天気に恵まれた当日、86歳の信徒を含めた信徒・司祭・シスターら約40人が、楠原牢跡から旧道（城岳の山道）を通って水ノ浦牢跡までを、休憩をはさみながら1時間以上かけて歩いた。五島市岐宿町にある2つの牢跡は、1868年に始まった迫害で信者たちが投獄された所である。

参加者の一人は「先祖の気持ちを思いながら、また自分たちの信仰が強められるよう祈りながら巡礼しました。巡礼後、女性部の皆さんが作った温かいぜんざいを食べて、身も心も満たされ、兄弟的交わりを深めた一日となりました」と感想を述べた。

核兵器廃絶に向けて

科学者と宗教者との対話集会

長崎での第61回パグウォッシュ会議世界大会開催（11月1～5日）に合わせ、長崎県宗教者懇話会（野下千年会長）と世界宗教者平和会議（WCRP）日本委員会は6日（金）、「核兵器廃絶に向けた科学者と宗教者との対話集会」をカトリックセンターで開き、約120人が集った。

これは、科学者と宗教者が核兵器廃絶への道筋を共有し、集会で見いだされた行動を多くの人々と分かち合い実行を呼び掛けようとするもの。専門家らによる基調講演やパネルディスカッションを経て、集会の終わりに共同アピール文がアジア宗教者平和会議（ACRP）シニアアドバイザーの神谷昌道氏によって読み上げられた。「今日の出会いが、核廃絶と戦争の防止という崇高な目的を共有する科学者と宗教者の対話の出発点であることを確認し、結びとしたい」

また、パグウォッシュ会議期間中の3日（火）は、純心女子高等学校音楽部がグレゴリオ聖歌をつとめた新作能『長崎の聖母』が長崎大医学部記念講堂で上演されるなど、平和への祈りが表された。

憎しみを愛に変えて

島原・天草殉教福者記念ミサ

10月11日（日）風が秋を感じさせる快晴の中、原城本丸跡（南島原市南有馬町）で、島原小教区主催による島原・天草殉教福者記念ミサが開催された。列聖推進委員会、福岡教区崎津・大江・本渡小教区協賛。

戦後70年を迎えた今年のテーマは「剣を鋤に、槍を鎌に」。この地の殉教者たちは、戦いの道具を祈りの道具に変えて福音を生きた。殉教福者の取り次ぎを通して、私たち自身も平和の道具となるようにとの思いが込められている。

記念ミサは山田良秋師（島原小教区主任）ら7人の司祭による共同司式でささげられ、約250人の信者が参加した。コンベンツアル聖フランシスコ修道会の松田清四朗師（湯江小教区主任、写真左）は、次のように説教した。「私たちは400年前に起こった出来事を繰り返しているのではなく、彼らが生きた信仰を、今ここで、秘跡をもって共有するために集まっています。イエスが説き続け、殉教者たちが教えてきた憎しみを愛に変えるという信仰の事実を、今、私たちが同じ信仰をもって彼らと共に祈るときに、彼らが賛美と祈りを通して亡くなっていったことを感じられるように祈りたい。」聖体拝領後には、「島原半島信者代表によるローマ教皇への手紙」が朗読された。

原城跡は世界遺産の候補となっていることもあり、ミサ後、見学や写真撮影をする参加者の姿も多く見られた。

神の恵みを軸足に

牢屋の窄殉教祭

浜脇小教区は10月25日（日）、牢屋の窄殉教祭を開催した。

殉教祭は、日本の信徒発見150周年を記念するロザリオ行列から始まった。好天に恵まれたこの日、約1・5㎞の殉教地への道のりは、秋の穏やかな海風に吹かれながらの行進となった。かつて水責めの舞台となった海岸沿いを十字架と共に進みながら、参加者は殉教者の信仰に思いを馳せた。

続く殉教記念ミサの司式と説教を担当した中村満師（下五島地区長、福江・浜脇・井持浦小教区主任）は、「軸足は神様の恵みに、もう一方は自力で、交互に踏み出すことでしっかりと信仰の歩みを交わすことができる」と話し、神への信頼と自らの信仰の努力を両立した殉教者たちの模範に倣うよう促した。

殉教祭に参加した93歳の葛島マシさん（奈留小教区）は、「殉教者のお恵みなのでしょう。普段気になる膝の痛みも、ここでは感じたことがありません」と、実感する殉教祭の恵みを笑顔で語った。下五島地区の司祭・修道者・信徒の他、関西方面や長崎からの巡礼者も加わり、200人余が恵みを享受した。

戻るべき長崎とは

黒瀬の辻殉教祭

山田小教区（主任 福島光明師）は11月8日（日）、福者ガスパル西 玄可とその妻ウルスラ・トイ、長男ヨハネ又市の殉教を記念する「黒瀬の辻殉教祭」を行った。

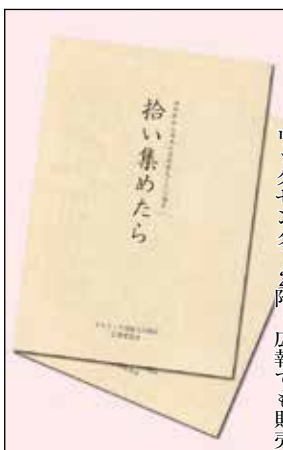
悪天候のため、開催場所が殉教地・クルスの丘公園（平戸市生月町）から山田教会に変更されたが、聖堂は約200人の参加者で埋め尽くされ、山田 聡師（平戸地区長、平戸小教区主任）の主司式のもと記念ミサがささげられた。

説教を担当した高野治師（宝亀小教区主任）は、かつてどの家庭でも見られた家族そろっての祈りの風景を、ユーモアを交えながら紹介。ここにも、シノドス期間中、教区報を通して「長崎はなぜ長崎を棄てるのか」と問い続けられた、戻るべき長崎があるように思うと述べ、家族そろって祈ることのなくなった現状から一歩を踏み出す勇気が与えられるよう、西家族の取り次ぎを祈りましょう、と呼び掛けた。

山田小教区の信者たちは、西家族の殉教日である11月14日（土）にも、殉教地の地下聖堂でミサをささげている。

信仰年から日本の信徒発見150周年へ

拾い集めたら



◆500円（送料込／振込手数料別）
◆申込は氏名・送付先・電話番号・部数を明記の上、FAXかメールで（カトリックセンター2階・広報でも販売）

【申込先】教区広報委員会
FAX　095-843-3417
メール　nkoho@nagasaki.catholic.jp

お知らせ

●平戸ザビエル記念教会の新FAX番号　0950-29-9800　※電話番号は変更ありません。

短信

〈小教区報発行の節目〉

小教区の記録ともいえる小教区報。この9月に俵町教会『輪』が300号を、11月に大浦教会『つどい』と浦上教会『神の家族』が500号を迎えた。12月には奈留教会『漁火』が400号を迎える。

ぶどう園

▼純心女子学園創立80周年記念《純心ゆかりの作家・長崎ゆかりの作家》展　12月1日(火)～13日(日)、長崎県美術館 県民ギャラリー。入場無料。長崎大司教区など後援。

▼平戸ザビエル祭　12月6日(日)14時、平戸ザビエル記念教会。

▼いつくしみの特別聖年開年ミサ　12月13日(日)15時、浦上教会。

▼長崎神学校創立150周年記念ミサ　12月20日(日)16時、浦上教会。

▼講演会「食の力――新たな家庭の霊性を求めて」　2016年1月24日(日)13時、カトリックセンター・ホール。講師・伊藤幸史師（東京教区司祭）。参加費無料。教区家庭委員会主催。

感謝

―寄付―

長崎カトリック神学院
●匿名様（浦上）

―香典返し―

長崎カトリック神学院
●吉村冨美様（中町）
故マリア杉原弘子様
●堤 惠吉様（浦上）
故小さきテレジア
堤 マツエ様

右の方々からご寄付・ご芳志を賜りました。お礼とご報告を申し上げます。

大神「召命の集い」に出店

東日本大震災復興支援 in 九州

東日本大震災復興支援のボランティア活動をしているベーススタッフが集い、11月3日（火・文化の日）福岡市城南区の日本カトリック神学院福岡キャンパスで開催された「召命の集い」で、特産品の販売を行いました。

長崎教会管区・東日本大震災復興支援会議によるこの企画「東日本大震災復興支援 in 九州――友よ 私たちは忘れない」は、5年目に入った大震災の記憶を九州においても風化させないため、またスタッフの日頃の疲れを癒やしてほしいとの思いから生まれたものです。

7ベース（札幌教区宮古ベース、長崎教会管区大槌ベース、仙台教区釜石ベース・米川ベース、東京教区CTVC原町ベース、さいたま教区もみの木ベース、大阪教会管区大船渡ベース）のスタッフたちは、各ベースの特産品である蜂蜜・ワカメ・乾物・手作り装飾品などを販売。天気にも恵まれ、スタッフの協力で盛況のうちに終了することができました。

「召命の集い」には約1300人が参加し、駐日教皇大使ジョセフ・チェノットゥ大司教さま司式による野外ミサで締めくくられました。

教区本部　松尾　勝

第137回クルシリヨ

10月9～12日、イエズス会立山修道院で中村倫明師指導のもと、クルシリヨが開催された。

司祭・修道者各1人の他、福岡・大分教区を含む15小教区22人（男性8、女性14）30～77歳までの信者が、日常生活を離れて祈りと学びの時を共に過ごし、自分の召命と与えられた役割を生きる決意を新たにした。

参加者は次の通り。浦上3、本河内2、時津1、水主町1、諫早2、湯江1、三浦町2、鹿子前（船越）1、俵町1、大野1、太田尾（間瀬）2、上神崎1、土井ノ浦2、福岡・佐賀1、大分・明野1、司祭1、修道者1。

自死された方々への追悼ミサ

死者の月に当たる11月の14日（土）、浦上教会被爆マリア小聖堂で高見三明大司教司式、5人の司祭の共同司式により「自死された方々への追悼ミサ」が行われ、参列した約50人が祈りをささげた。『ゆりの会』主催、教区人権委員会協力のこのミサは今年で5回目。

高見大司教は説教の中で、「私たちは、神のおきてを強く主張していることがある。おきてに従っていないとしても、神はそれを認め、赦すということをなさっている。真心から祈ることは一つの愛であり、イエスの愛に倣うことだと思う。神のいつくしみと愛により頼んで、永遠のいのち、喜びをすべての人が受けることができるよう祈ろう」と語った。

この日、東京教区・麹町（聖イグナチオ）教会においても、幸田和生補佐司教司式により自死者のための追悼ミサがささげられた。

カリタス大槌ベースボランティア募集

- 1月14日㈭～20日㈬（12/23締切）
- 2月11日㈭～17日㈬（1/27締切）
- 3月10日㈭～16日㈬（2/24締切）

申し込みは所属小教区へ。問い合わせは教区本部事務局（松尾）まで。

TEL 095-842-4450　FAX 095-842-4460

みことばにふれて 123

辻原睦子シスター（お告げのマリア修道会）

「見よ、おとめが身ごもって男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる。」この名は、「神は我々と共におられる」という意味である。（マタイ1・23）

先日、親友に尋ねられました。「カトリックでは苦しみをどうとらえていますか。」実は同じ質問を同じ友に十数年前問いかけられました。私は当時もっていた知識で一生懸命励ましました。苦しみは神様に愛されているしるし、キリストはその苦しみを一緒に担ってくださると。彼女は答えました。「神さまに愛されなくていい。ただ苦しみを取り去ってほしい」と。それから度重なる彼女の苦しみを知るたびに、私は何も言えず、ただ「祈っています」と伝えることしかできませんでした。あなたご自身が側にいて助けてくださいと祈りながら。

病気や別れ、経済的な困難や人間関係、誤解や嫉妬、無力感……さまざまな苦しみに出遭う私たちです。努力が報われない体験も少なくありません。そして、不思議と他人を励ます時に出てくる言葉が自分には通用しない時があります。私自身、神様が共にいてくださると信じていながらも身動き取れない状態になったことがありました。そんな時、ある人がこう励ましてくださいました。「貧乏くじと思いたくなるかもしれません。……でも、一番の貧乏くじはイエス様です。そのイエス様に似ていると思ったら気が楽になりませんか」と。一瞬にしてその生涯が頭の中を駆け巡りました。

イエス様はインマヌエルとして「神が私たちと共にいてくださる」ことを伝えるためにこの世に来られ、罪以外は私たちと同じような試みに遭われ、そして、弟子たちのもとを去る時に「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる」（マタイ28・20）と言葉を残されました。私は何度この言葉を使って自分や人を励ましてきたでしょう。けれど、大切なのは私自身が、その喜びを生きているかということでした。「すべての人の苦しみを担われたキリストがいつも共にいてくださることを私たちが証しできますように」と『東日本大震災被災者のためにする祈りⅡ』を唱えるたびに思いを新たにしています。

今回も私は友に前回と同じようなことを伝えました。神はあなたと共にいてくださると念じながら。

新刊良書

★ちいさなてんしのおくりもの――クリスマスのものがたり

文＝アリスン・マギー、絵＝ピーター・レイノルズ、訳＝堀口順子

小さな天使のアステルは、もうすぐ生まれる赤ちゃんへの贈り物に悩む。一生懸命考えた末の贈り物とは。ドン・ボスコ社、税別1000円。

★★★

★愛と生命と平和

編＝イエズス会霊性センターせせらぎ

「現代の日本は、司祭や修道者がどんどん減り、昔のように信徒が教会の先頭に立ち、信仰の光のたいまつを受け継いでいく時代が迫ってきています。その時は信徒が集会祭儀を行い、主日のみことばを伝えるでしょう。その信徒たちのことを考えて、この本をつくりました」（「まえがき」より）。聖母の騎士社、税別1600円。

追悼

マリー・エンマヌエラ 下釜博美修道女（援助マリア修道会）

10月12日、長崎市内の病院で逝去。63歳。1952年1月12日長崎市生まれ。86年3月31日初誓願。93年3月25日終生誓願。86年4月から下関（長府）の海の星幼稚園で幼児教育に従事。2000年4月、長崎へ。

教区信仰教育委員会に務め、中町教会ではカテキスタとして働き、子どもたちと多くの時間を過ごした。オルガンが上手で、園児や教会学校の子どもたちともよく歌っていた。

昨秋、病気が見つかり治療に当たっていたが、大らかな笑顔は以前と変わることなく、手話の分野においても積極的に奉仕する優しく明るく活動的なシスターだった。誓願生活29年。

葬儀ミサ・告別式は10月14日、本原教会で執り行われた。

エリザベット 谷中セイ子修道女（お告げのマリア修道会）

10月23日、膵頭部がんのため、鯛ノ浦修道院で逝去。87歳。

1927年新上五島町鯛ノ浦生まれ。40年鯛ノ浦修道院に入会。62年初誓願、77年終生誓願宣立。

鯛ノ浦、上神崎、田平、福見、佐世保で保育と調理、福江では15年間、司祭館と修道院の調理に携わり、恵まれた調理の才能で司祭と姉妹に仕えた。福江で大腸がんを患ったが小康を得、2005年に鯛ノ浦に赴任、修道院の炊事と祈り係として、惜しみなく働いた。

物静かな中にもしっかりとした意志を持ち、神に全てを委ねていた。激しい痛みを静かに受け止め、少しのお世話に対しても必ず感謝の言葉を伝えた。

葬儀ミサ・告別式は10月25日、鯛之浦教会で主任の烏山邦夫師により執り行われた。

トマス・アクィナス 大木章次郎神父（イエズス会）

10月29日、骨髄異形成症候群のため、東京・ロヨラハウスで逝去。89歳。1926年東京生まれ。46年入会、56年司祭叙階、59年最終誓願。

栄光学園、広島学院での教職後、50歳を過ぎてからネパールでの奉仕を志願。カトマンズのイエズス会学校で教えた後、ポカラで障害児施設を創立した。福祉活動に専念する傍ら福音の種をまき、信徒のために教会建設を計画、昨年完成した。その完成を見ることなく2009年に帰国した後は、東京と長崎で司牧、伊万里のトラピスト修道院チャプレンとして晩年を過ごしたが、健康を害して東京に移っていた。

自分の意志をしっかりと持ちながらも、望みに反する現実を静かに受け止め、神の僕としての生涯を全うした。

葬儀ミサ・告別式は11月3日、東京・麹町（聖イグナチオ）教会で執り行われた。

長崎の教会群インフォメーションセンターニュース〔第2号〕

「世界遺産候補」の教会見学の事前連絡について

この9月から、世界遺産暫定登録の各教会を見学するにあたっては、事前の連絡をお願いいたしております。これは、一般の方々の見学が多くなり、巡礼の方々や信者の皆様方の訪問に支障をきたさないようにするためです。

「旧野首教会」を除く「出津教会堂」「大野教会堂」「田平天主堂」「黒島天主堂」「頭ヶ島天主堂」「江上教会堂」「旧五輪教会堂」「﨑津教会」を訪れる際には、事前に当センターへお申し込みください。ご協力よろしくお願いします。

【申し込み方法】事前連絡入力フォーム
当センターホームページからお申し込み
⇒⇒　http://kyoukaigun.jp/

白蟻調査無料・駆除予防工事5ケ年保証付
白蟻防除施工士
大田白蟻研究所
代表者　マリア　大島睦子
（〒850-0811）長崎市矢の平1丁目14番15号
☎長崎 095－822－8436
FAX 095－822－8488

タンスの中身は入れたまま
責任ある安全運送!!
（見積り無料・荷造り発送も致します）
24時間営業・年中無休
受付時間 7：00～22：00
水浦運送
シモン　水浦幹雄
長崎市上野町12－3
TEL(095)(代)847－7151
844－1420
貨物保険有り
・一般引越　・小荷物
・荒ゴミ捨て　・遠距離
・学生引越　・ピアノ運搬

交通誘導警備　常駐警備　イベント警備
（有）小田警備保障
警備員募集！
電話 095-856-6524　FAX 095-856-6523
長崎市横尾3丁目31-15　代表取締役 パウロ　小田　睦

石碑
文字彫刻
墓地工事
リフォーム
墓地分譲
ながさきせきちょう
長崎石彫
ヨゼフ　岩永　博明
☎(095)862-2469
長崎市梁川町6-17　岩永ビル